

生物多様性 — TNFD提言への対応 —

基本的な考え方

生物多様性の保全のため、事業活動における生物多様性への影響の把握や負の影響の改善に向けた取り組みを推進しています。生物多様性に関する取り組みをグループ全体として進めていくことで、「昆明・モントリオール生物多様性枠組」において掲げられているネイチャーポジティブな社会の形成を目指していきます。

その実現に向けた自然との接点の識別や評価、取り組みの推進や体制整備にあたっては、TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)の提供するフレームワークを活用し、開示要項に沿って自然の取り組みや分析結果を整理しています。

中でも、自然との接点の把握や、自然に関する依存・影響・リスク・機会の特定にあたってはTNFDから提供される分析アプローチであるLEAPアプローチ※1に基づいて分析を実施しました。

※1 企業活動と自然との接点や自然関連の依存・影響・リスク・機会の特定、目標策定などを評価、実施するためにTNFDが開発した分析手法で、Locate(発見)、Evaluate(診断)、Assess(評価)、Prepare(準備)の頭文字をそれぞれ取ってLEAPアプローチと呼ばれる。

● ガバナンス

生物多様性関連の取り組みは、「TCFD提言に基づく情報開示」における気候変動と同様の体制で管理・監視しています。また、当社グループでは「サステナビリティ方針」を定めており、これに基づき、事業活動が地域の自然環境に与える影響の把握に努め、生物多様性に配慮した活動を推進しています。

● LEAPアプローチによる分析

LEAPアプローチの分析範囲としては、事業規模と自然への依存・影響の大きさを考慮しつつ、より網羅的に事業と自然との関係性について評価するために、当社グループの主要事業であるガス事業については直接操業およびサプライチェーン上流の投資先を対象とし、その他の事業については直接操業のみを対象としました。

2024年度に実施した分析では、LEAPアプローチのうち、Locate(自然との接点の発見)、Evaluate(依存と影響の診断)に関わる項目についての分析を実施しました。



2024年度はLocateとEvaluateのみ実施

● 自然との依存・影響関係

TNFDで推奨されている分析ツールの一つである ENCORE※2を使用し、潜在的な自然への依存と影響それぞれの観点から、対象事業と生態系サービスおよび自然資本との関係性を分析し、右上の表の結果が得られました。

ENCORE分析結果をもとに対象事業と自然との依存・影響関係をヒートマップでまとめたものをWebサイトに掲載しています。

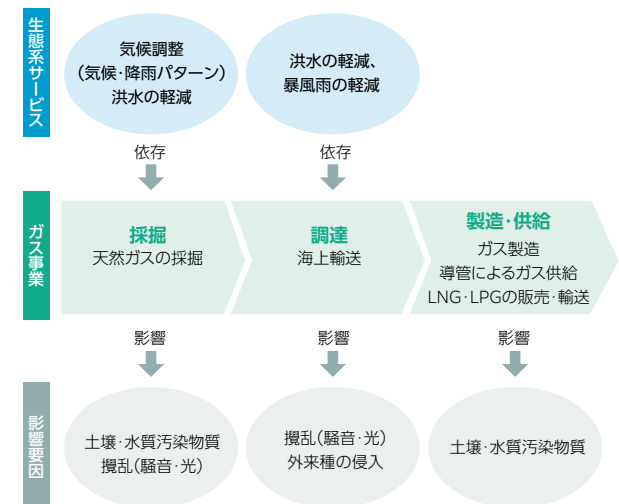
※2 国連環境計画・金融イニシアティブ等が共同開発した、自然関連の依存や影響の把握を支援するツール。国際標準産業分類に基づき、経済活動ごとに想定される自然への依存や影響を評価するもの。

当社事業と自然との依存・影響関係を表すヒートマップ
詳細はWebサイトをご参照ください。
https://www.tohogas.co.jp/corporate/eco/pdf/2025toho_web_heat-map.pdf

対象事業の生態系サービスおよび自然資本との関係性

事業名	自然との依存・影響関係
ガス事業 (LPG含む)	天然ガスの採掘や都市ガスの製造プロセスにおける土壌・水質汚染の影響や、天然ガス輸送時のバラスト水による在来種への影響が高い可能性がある。サプライチェーンごとの詳細は下図参照。
電気事業	ガス火力発電における温室効果ガス排出による影響や、風力・太陽光発電における気候調整機能への依存が高い可能性がある。
熱供給事業	蒸気・冷温水等の製造プロセスにおける温室効果ガス排出による影響が高い可能性がある。

ガス事業におけるサプライチェーンごとの 自然との依存・影響関係



生物多様性 — TNFD提言への対応 —

● 要注意地域の特定

当社グループの操業拠点および主要事業における投資先と周辺の自然環境との関係性を把握することを目的として、TNFDにおける評価観点として推奨されている各種ツールを用いて当社グループにおける要注意地域を特定しました。

要注意地域特定のための分析ツールには、生物多様性の重要性を評価するためにIBATおよびGlobal Forest Watch、水ストレスの評価にはAquaduct、生態系の十全性評価にはGLOBIOwebを使用しました。

分析の結果、自然公園や鳥獣保護区に近接することなどから、国内外32拠点を要注意地域として特定しました。

● 今後の取り組み

今後も生物多様性保全に貢献する取り組みを進めつつ、LEAPアプローチのAssess、Prepareのステップに着手し、積極的な情報開示にも努めていきます。特に、2024年度の分析結果については、リスク・機会分析の中でより詳細に評価し、対応策や目標・指標の検討を実施していきます。

● 生物多様性保全に貢献する取り組み

● ビオトープの設置

2000年に知多緑浜工場にビオトープを設置し、希少種、固有種の育成など生態系の保全に取り組むとともに、専門事業者により動植物種調査を実施しています。また、2010年にはガスエネルギー館、2018年にはみなとアクルスにもビオトープを設置し、地域固有種の保全や環境教育などに活用しています。



知多緑浜工場のビオトープ

● 命をつなぐPROJECTへの参画

「命をつなぐPROJECT」は、学生実行委員会が中心となり、知多半島臨海部の複数の企業と行政、専門家、NPOが協力し、企業緑地群をフィールドとした生態系の創出・保全や、持続可能な社会づくりの未来の担い手である学生の育成に取り組んでいる活動です。

当社は本プロジェクトに参画しており、緑地・ビオトープの整備や、地域学生と連携した外来種の駆除・生きものモニタリング調査などの活動に、近隣企業とともに取り組んでいます。

本プロジェクトの活動地である知多半島グリーンベルト(知多半島臨海部の企業緑地群)は、環境省にて2023年前期の自然共生サイトに認定されました。今後も各社と連携した取り組みを継続し、知多半島の生物多様性の向上を目指します。



知多半島グリーンベルト



生物多様性に関わる取り組み
詳細はWebサイトをご参照ください。

https://www.tohogas.co.jp/corporate/eco/pdf/2025toho_web_biodiversity.pdf